秋祭り・遊びランドへのご意見・ご感想

2015 年 11 月、これまでの“作品展＆バザー”を改め、“秋まつり・あそびランド”を開催いたしました。作品展から遊びランドに移行した理由、バザーを開催しないことの理由は、昨年度来、在園生保護者に対しましては、2014 年度母の会臨時総会および 2015 年度みぎわ会総会、さらに園便りなどでお伝えしてまいりましたが、外部の方、また卒園生およびその保護者にとっては、その理由、主旨が理解しにくかったことと思います。

今回、初めての“秋まつり・あそびランド”を終えて、在園児保護者対象にアンケートを実施いたしました。その内容と園としての回答を公表させていただくことで、園の取り組みの方向性をご理解いただければと願っています。

Ｑ１．どうして“作品展”が“秋まつり・あそびランド”になったのですか？

Ａ１．幼児にとっての遊びの重要性を保護者や地域の方々に理解していただく目的で、これまでも名称は“作品展”であっても、幼児の遊びのおもしろさや奥深さ、人や物との関わりの中で創意工夫し試行錯誤する姿を伝えてきました。が、“作品展”という名称と、遊びの中で生み出されてきた“作品”＝“具象物”を展示しつつ遊びを解説するという方式であったため、どうしても保護者の関心は『わが子は作品展に向けてどんなものを作っているのか？』『うちの子はいったい何を作ったのか？』となっていました。 また担任保育者も、一人一人の遊びに向き合うことよりも、『何を作るか？』『どれを展示するか？』『まだ誰が作っていないか？』『見栄えはどうか？』といったことに心を奪われがちでした。さらには、幼児の遊びの盛り上がり、波、発展・展開、仲間との協同的な活動も、それぞれの出会いがあり、発見があり、タイミングがあります。ある時期（１１月上旬）に、一斉に展示するものを用意することに縛られていては、一人一人の遊びを十分に丁寧にサポートすること、環境構成することができなくなってしまいます。子どもの創意工夫や試行錯誤を具体的なものを通してわかりやすく紹介したいという願いと、一人一人の日々の活動に丁寧に寄り添っていきたいというジレンマの中で、行事の名称から“作品”や“展”というワードを外し、目的である遊びを、幼児の視点でとらえるという意味合いでひらがな表記し、その日一日幼児の視点で遊びを体ごとで感じ、味わってもらいたいと願って“あそびランド”としました。“秋まつり”に関しては、バザーがなくなって寂しい印象を払拭し、『みんながワイワイお祭りのように集い遊んでもらう日』という願いをもって名称に加えました。

Ｑ２．祭っぽい雰囲気ではなかった（出店も含めて）のでは？

Ａ２．上述したような願いで行事の名称に“秋まつり”とつけたのですが、“秋まつり”は取り除いてもいいかと教諭会で話し合っているところです。日頃の遊びをなるべくそのまま表現したいと願っていますが、園行事はやはり日常ではなく、非日常…しかし、それを“まつり”と表現する必要性はないと思います。

Ｑ３．出店の方法に疑問を感じた。

Ａ３．作品展の名残で、外部の出店を今年度はそのまま残しました。おもちゃ屋さんに関しては、園で取り扱っているボードゲームやカードゲームの出典・根拠を示すために園から依頼した次第です。（どこのどういう遊具は、こうした教育的ねらいがあって企画・デザインされている等々。）参加者に遊んでいただくだけでなく、必要に応じてその遊びの道具・遊具を実際に区入することもできるというメリットは、逆にみると、遊びを創り出すのではなく、お金を出して買うという行為、遊びを消費活動ととらえることにもなり、また、子どもに何でも買い与えることの問題点やせがまれて保護者が困ってしまうといったデメリットも生み出します。このご意見を参考に、来年度以降の出店の在り方を見直していきます。

Ｑ４．作品がもう少しあった方が良かった。

Ａ４．Ａ１でお伝えしたように、あそびランドの主旨は、遊びの意義・大切さを理解していただくことです。今回、初めてのあそびランド実施にあたり、具体的に遊びの様子を伝える手立てとして、また、その展示されている作品からインスピレーションを得て遊びが始まり発展することを願って各遊びコーナーに作品を少しだけ展示いたしました。 が、作品を展示することが目的の行事ではありません。作品展示や、遊び紹介を、ある特定の行事の日にだけ行うのではなく、年間を通して遊びの中で生まれてきた具象物を紹介したり、遊びのドキュメンテーションをホームページや掲示物、お便りなどで発信できるようにしたいと考えています。日々の保育の中で、作品を紹介する機会を増やしていきます。

Ｑ５．以前の作品展では、コメントが添えてあることで子どもの園での活動の様子が分かったのに…。

Ａ５．Ａ４でも回答したように、子どもたち一人一人がこだわり、試行錯誤、創意工夫して遊び込んでいる姿を、行事ではなくその都度保護者の方にお伝えできる方法を考え、その情報発信を展開していきます。

Ｑ６．１０月下旬に保育参加を体験してみて、作品展があった昨年度までと比べて、行事が違うせいか、制作コーナーの素材が乏しいように感じた。

Ａ６．保育指導計画は、園の教育目標があり、その目標を達成するために教育課程を編纂し、それをもとに年間指導計画、期案、週案、日案を立てています。行事があるから環境構成を変える、整えるという考え方、計画、実践の方法でなく、子どもの姿に寄り添い、子どもの必要性・遊びの発展性を敏感に汲み取り、常に適切な環境構成となるようにＳＰＤＳ（保育版ＰＤＣＡ／Ｓ：子どもを見る、Ｐ：計画、Ｄ：実践、Ｓ：学び直し）を回していくように努めます。日頃の遊び環境が、その日、その時、そのクラス、その子にふさわしいものであるように、常に見直していける体制を整えていきます。

Ｑ７．いつものファミリーデイと変わらない気がした。

Ａ７．これまでの作品展も今回のあそびランドも、年間の指導計画の中では、ファミリーデイとして位置付けています。運動会も同じ位置づけです。但し、他のファミリーデイと違うところは、全員出席すべき日としているところです。つまり、課外活動ではなく、正課活動として、家族参加の行事としているところです。他のファミリーデイは、“自然”や“水遊び”、“伝承遊び”や“絵本”など、遊びの中のあるジャンルに特化した内容となっていますが、あそびランドは、幅広く遊びを捉え、園生活の総合的な側面があります。いつものファミリーデイという印象でも間違いはありませんが、総合的である点や、スペシャル感を感じていただけるように工夫してまいります。

Ｑ８．年長児担当の喫茶室がありましたが、年中少のお店屋さんもあるといいのでは？

Ａ８．普段の保育の中で、例えば年長児がお店屋さんごっこをしていて、そこにお客さんとして訪れた年中少児が、自分のクラスでもお店屋さんを始めるという姿は、常日頃みられるものです。ただ、それを行事化するということは困難です。年中少クラスでのお店屋さんごっこの姿を、しっかりドキュメンテーションできるように取り組んでまいります。

Ｑ９．秋まつり・あそびランドの準備段階から、保護者もお手伝いしたいと思います。

Ａ９．とてもうれしいご意見です。計画を立て、あそびランドの構想が具体化していく中に、保護者のサポートも盛り込みながら進めていきたいと思います。

Ｑ１０．人が多くて（雨のため）木工コーナーが危ないと感じた。

Ａ１０．教諭会でも出ていた反省点です。具体的な手立てとして、ホールを全面木工コーナーにする案が出ています。今年度は初回ということで、ゲストを招きホールの半分をワークショップ会場としましたが、来年度以降はゲストの招へいは考えておりません。ゲストに頼ることなく充実した行事となるようにしたいと考えております。ホールを木工コーナーとするメリットは、管理性の高さです。園庭やテラスといったオープンスペースには、木工活動をしようと意識していない子どもも往来し、そのことによって様々な危険性が生まれてきます。しかし、閉じた空間であるホールでは、木工活動に取り組もうとする意志を持った家族が入室することで、事故や怪我の可能性をずいぶん低くすることができると思います。また、道具や素材、活動人数のコントロールもしやすくなってきます。

Ｑ１１．未就園児を連れての参加がしんどかった。

Ａ１１．未就園児のコーナーを設けたとしても、その子の兄姉が例えば木工活動がしたいとなると、やはり、安心して過ごせない状況が生まれると思います。未就園児を連れて安心して楽しめる“あそびランド”の在り方は、これからの課題です。

Ｑ１２．どうしてバザーがなくなるのですか？

Ａ１２．バザーは保護者の方の、園の教育活動を支えたいという意思によって運営されてきました。役員を中心に、全園児保護者が一つとなって、余剰品や手作り品、飲食の販売などの企画、運営をしてくださり、その売り上げを園に寄付してくださっておりました。はじめのうちはきっと、『できる範囲のことを！』だったはずです。が、長い年月を経て雪だるまのように、できること・できたことが少しずつ増え、自由意志だけでなく義務感も生まれ、大きく重たい行事になってきました。ここ数年の役員さんを中心に、持続可能なバザーや役員業務の在り方を模索してきました。しかし、今あるバザーを今後引き継ぐことは困難と判断し、“母の会”から“みぎわ会”へ移行する 2015 年度（会の名称変更に関しては、園ホームページ“みぎわ会”参照）より、バザーを開催しないということといたしました。

Ｑ１３．バザーをやりたいという声がたくさんあります。

Ａ１３．“たくさん”というのは、抽象的な表現です。実態・実数はどのような状況でしょうか。昨年度のアンケートでは、バザーの開催に賛成で積極的に協力したいと申し出られていた方は３名ほど（分母は約 200）でした。

手作り品の販売など、これまでの評判のよかったものを失くしたくないという思いはとても共感できます。持続可能な方法で実施できればいいのですが…。

Ｑ１４．やりたい人でバザーをやってはどうでしょう？

Ａ１４．以前、やはりバザーがない時期（1996～1998 年）がありました。その当時も、バザーをしたいという方々がおられ、フリーマーケット方式で、幼稚園行事ではない時に開催したこともありました。有志でバザーを企画・運営するということは不可能ではないと思います。が、みぎわ会役員の意見を徴することが重要です。役員が責任を負うことはできませんが、役員と無関係に保護者の活動が運営されていくことも避けるべきだからです。みぎわ会との話し合いの中で、持続可能な形で、もしくは継続しない形での、無理のないバザーの案が生まれてきたら、園としても一緒に考えていくことは可能です。ただし、あそびランドとの同時開催は、行事の主旨および会場準備の都合上不可能です。

Ｑ１５．バザーがないので、外部の人の居場所がなかったように思う。

Ａ１５．年長児による喫茶室“スカイモンスター”は、誰でも自由に無料でお茶とお菓子を召し上げっていただけるスペースです。が、時間限定（10 時～11 時および 13:30～14:30）であり、席数にも限りがありましたので、ゆっくりしていただくことは難しかったかもしれません。また、4 店舗ほど外部の方に出店していただいておりましたが、秋まつり・あそびランドにお店があることがふさわしいかどうか教諭会で協議しているところです。確かに、外部の方に楽しんでいただける場所づくり、という視点は弱かったかもしれません。“秋まつり・あそびランド”の主旨を再確認し、これからの課題として取り組んでまいります。